

囲むように pooling, 後者は hypovascular. 平成7年12月14日胆摘と肝中央2区域切除施行. 病理検索で S6 の腫瘍は血管腫, S4, S5, S8 の腫瘍は第Ⅷ因子関連抗原陽性の細胞を含む類上皮性血管内皮腫と診断された. 本症はステロイド剤の関与が重要視されており, 本症例もその関与が強く疑われた.

34) 肝未分化肉腫の1治験例

新田 幸壽・大谷 哲士 (新潟市民病院)
 飯沼 泰史 (小児外科)
 斉藤 英樹 (同 外科)
 渡辺 徹・佐藤 雅久
 小田 良彦 (同 小児科)

今回我々は, 非常に稀で予後不良とされる肝未分化肉腫の1例を経験したので報告する.

症例は, 11才男児, 右季肋部痛と腫瘍を自覚し受診した. 肝機能検査や AFP など各種腫瘍マーカーは正常で, CT などより肝右葉 S6 を主座とする間葉系腫瘍と診断し, 肝右葉切除を施行した. 腫瘍は, 11×10×8

cm, 750 g, 断面は多結節性充実性で一部セラチン様物質や減死物質を含む嚢胞形成を認めた. 肝未分化肉腫の病理診断にて (肝芽腫分類: T₂C₂V₀N₀M₀, stage II), 日本小児肝癌スタディグループ J・PLT91B2 に準じ C-DDP と THP-ADR の併用療法を開始した. 5クールが終了し術後1年が経過したが再発を認めない.

過去30年間の本邦報告42例中転帰の明らかなものは38例で, うち救命の可能性あるものは15例で, これらはいずれも腫瘍を切除し得て多剤化学療法を加えた群であった. 極めて予後不良な本症であるが, 切除+多剤化学療法群に治療成績向上の可能性が窺えた.

II. 特別講演

「原発性胆汁性肝硬変 —最近の話題—」

関西医科大学内科学第Ⅲ教授

井上 恭一 先生